



# くすの木

都城市立志和池小学校

学校だより

令和4年度 1月号(1月31日)

校長 川越 広幸

## ■成長の3学期に■

令和5年になり、1ヶ月が過ぎようとしています。3学期の始業式で、子ども達に次のことを話しました。

- ・苦手なことや、やらなければならないことに対して、「後からやる」「明日からやる」と後回しにせず、今すぐに始めてほしい。
- ・自分の好きなこと、得意なことをさらに伸ばし、自信をつけてほしい。
- ・6年生は4月から中学生になり、1年生から5年生は進級する。「まとめの3学期」「来年度4月に向けて準備の3学期」「成長の3学期」にしてほしい。

1年間の中でも最も寒い時期ですが、子ども達は意欲的に学習に取り組んでいます。各学級において、これまでも増して真剣なまなざしが多く見られるのは嬉しいことです。また、昼休みには、全体の3分の2ぐらいの人が外に出て元気に遊んでいます。

学校では、学級担任や教科担任、級友との絆を大切にしながら、1年間のまとめとなるように子ども達を励ましていこうと思います。ご家庭におかれましても、温かなご支援をお願いします。



## ■子どもの話を聴くということ■

あるテレビ番組で、雅楽師の東儀秀樹さんの息子さんが「子どもの頃、親に話し始めたら、いつでも手を止めて最後まで聞いてくれた」とコメントされていました。私は、自分の子育てを振り返り、反省するばかりです。

相手の伝えたいことに深く耳を傾けて話を聞くことを「傾聴」といい、子どもの「自己肯定感」を伸ばすと注目されています。自己肯定感とは、「ありのままの自分に価値がある」「自分は大切な存在だ」と思える感覚のことです。自己肯定感が高い人は、他人の評価ではなく、自分の価値観で幸せを感じられ、逆境に強いといわれています。

「傾聴」とは、次のような聴き方です。

- ①子どもの立場に立って、共感する。
- ②親の価値観で判断せず、なぜそう考えたのか肯定的に聞く。
- ③子どもの話にわからないところがあったら、積極的に質問する。

## ■プレゼンコンテストに出場■

2月4日(土)、ウエルネス交流プラザにおいて「第1回都城市小・中学生プレゼンコンテスト」が開催されます。本校の5年生グループが予選を勝ち抜き、出場することになりました。国語の学習で学んだことを生かし、「社会は暮らしやすい方向へ向かっているのか」というテーマについて発表します。学校の代表として、頑張ってきてください!

### 【出場者】

- ・内山 英美里さん
- ・皆吉 太善さん
- ・小路 絆夏さん
- ・西山 敦務さん
- ・田中 真利さん



## ■徒歩登下校のすすめ■

先週は、極寒の日が続いたためか、車による送迎が多く見られました。体育館横の駐車スペース付近は、徒歩通学の児童、自転車通学の中学生、通勤を急ぐ車やトラック等が行き交い、大変混雑する時間帯があります。先週は「ヒヤリ」とする場面がありました。

大雨や落雷、怪我をしている時、遠方からの通学など、特別な理由以外は、できるだけ徒歩での登下校をお願いします。なお、車での送迎の際は、周囲の状況に十分に気を配るなど、交通安全にご留意ください。

これまでも学校だよりで紹介していますが、「徒歩登下校のメリット」を再掲します。

### 〈徒歩登下校のメリット〉

- ①脚力・体力がつく  
片道1km歩くとしたら、1日往復で2km。200日登校したら年間400km。車での送迎の人と歴然とした差がつく。
- ②忍耐力、持久力がつく  
自分の足で一歩一歩前に進まなければ学校に着かないし、家にも帰れない。だからこそ我慢する力、忍耐力、持久力がつく。
- ③あいさつができる  
登下校中、会った人とあいさつができる。コミュニケーションがとれるようになる。
- ④感性が育つ  
歩くことで四季の移り変わりを肌で感じる。
- ⑤脳が活性化する  
歩いて登校することで足の裏から全身が温もり、血液が循環して脳にいい影響を及ぼす。